

情報名: 下地補修工程塗装仕様

補修塗装工程	作業内容	使用材料
旧塗膜のチェック	<ul style="list-style-type: none"> 旧塗膜の耐溶剤性をチェックする。 溶剤性の弱い塗膜の場合 パテ 旧塗膜上にオーバーラップさせない サフ 2液プラサフはブロック塗装する 	ラッカーシンナー ウエス
洗車	<ul style="list-style-type: none"> 旧塗膜に付着しているゴミ・ホコリを除去する 	水道水
脱脂	<ul style="list-style-type: none"> 旧塗膜に付着している油・ワックス類を除去する 	ワックスオフメリット
旧塗膜の剥離	<ul style="list-style-type: none"> ダメージ部の旧塗膜をディスクサンダー・ダブルアクションサンダーP40～P60 ペーパーで剥離する 錆防止のため出来るだけ早くパテ・プラサフを塗装する 	ディスクサンダー ダブルアクションサンダー P40・P60 ペーパー
フェザーエッチング	<ul style="list-style-type: none"> ダブルアクションサンダーP120 ペーパーで旧塗膜のエッジ部を平滑にする 旧塗膜の耐溶剤性が弱い場合はフェザーエッジを広く取る 	ダブルアクションサンダー P120 ペーパー
目ならし	<ul style="list-style-type: none"> パテ付けする部分の旧塗膜を P180～P240 ペーパーで研磨する 前工程の荒いペーパー傷は消しておく 	ダブルアクションサンダー P180・P240 ペーパー アブラネット P180・P240
脱脂・除塵	<ul style="list-style-type: none"> 旧塗膜に付着している油・ワックス類を除去する 	ワックスオフメリット
パテ付け	<ul style="list-style-type: none"> 各パテの仕様に従う ダメージ部にパテ付けする 一度に厚付けせずしごき付けを行う ペーストは正確に添加する ペーストが少ない場合パテ際が出る事がある パテの乾燥時間はパテ仕様に従い十分に硬化させる 	タッチ ハイテンパテ ストロングパテ らく研ぎパテ など
研磨	<ul style="list-style-type: none"> パテの乾燥チェックについては、塗膜の薄い部分で確認する P80～P120 ペーパーで旧塗膜を傷つけない様に歪みを取る 研磨面に巣穴がある場合は、P180 ペーパーで目消しを行う パテのフェザーエッジ部は、パテ跡が出ないように丁寧に研磨し、P240～P320 ペーパーで最終目ならしをする 	エアークリーン P80・P120・P180 ペーパー アブラネット P80・P120・P240・P320 ミルカサンディングシステムを採用する事により研磨作業性・除塵環境が向上する
拾いパテ	<ul style="list-style-type: none"> 仕上げ用パテで巣穴拾いを行う 巣穴拾いはシゴキつけを行い、巣穴を埋めるようにつける 	180 パテ ・マジック拾いパテ

情報名: 下地補修工程塗装仕様

補修塗装工程	作業内容	使用材料
パテ研磨	<ul style="list-style-type: none"> •P180・P240 ペーパーで研ぎ過ぎないように平滑に研ぐ 	エアー工具 P180・P240 ペーパー アブラネット P240
↓		
脱脂・除塵	<ul style="list-style-type: none"> •塗膜に付着している油・ワックス類を除去する 	ワックスオフメリット
↓		
旧塗膜の足付け	<ul style="list-style-type: none"> •パテ面・プラサフ塗装面全体を P240～P320 ペーパーで研磨する 	エアー工具 P240・P320 ペーパー アブラネット P240・P320
↓		
プラサフ塗装	<ul style="list-style-type: none"> •プラサフの塗装仕様に従う •硬化剤は正確に計量し調合する •オーバーコートをしなないように(足付け処理以内で)塗装する 足付け不十分やオーバーコートするとフェザーエッジが取れずプラサフの際がでることがある 	ウルトラサフ 5 ウルトラサフ ハイグレードサフ スプレーガン
↓		
プラサフ乾燥	<ul style="list-style-type: none"> •プラサフの塗装仕様に従う •乾燥は十分に行う 乾燥が甘いとサフ際・仕上がり外観に影響を及ぼす 	乾燥設備
↓		
プラサフ研磨	<ul style="list-style-type: none"> •P800 ペーパーで水研ぎを行い、プラサフの肌を落とす •プラサフのぼかし部はフェザーエッジが滑らかに取れるよう研磨する •特に濃色塗色の場合は、深いペーパー傷をつけないように注意する 	P800 ペーパー
↓		
旧塗膜の足付け	<ul style="list-style-type: none"> •カラーベース塗装予定部は、P800 ペーパーで水研ぎを行う •クリヤーぼかし予定部は、細目コンパウンド又は P1500 より細かいペーパーで足付け処理する 	P800・P1500・P2000 ペーパー 細目コンパウンド アブラロン P600・P1000・P2000
↓		
脱脂・除塵	<ul style="list-style-type: none"> 塗膜に付着している油・ワックス類を除去する 	ワックスオフメリット
↓		
カラーベース塗装	<ul style="list-style-type: none"> •アクロベース塗装 •アクロベース塗装仕様に従う 	アクロベース スプレーガン・タッククロス
↓		
セッティング	<ul style="list-style-type: none"> •5分程度 	
↓		
クリヤー塗装	<ul style="list-style-type: none"> •クリヤー塗装仕様に従う 	AXEL クリヤー201 AXEL クリヤー401 AXEL クリヤー1001 など スプレーガン
↓		
セッティング	<ul style="list-style-type: none"> •クリヤー塗装仕様に従う 	

情報名: 下地補修工程塗装仕様

補修塗装工程	作業内容	使用材料
強制乾燥	• クリヤー塗装仕様に従う	乾燥設備
↓		
ポリッシング	• 乾燥後ゴミ取り処理を行い、コンパウンドで仕上げを行う	ミルカコンパウンド ポリッシャー・バフ